

# インターネットのブロードバンド時代に対応し、 インディーズに特化した映像・音声配信サービスを提供 松野真次 さん 日本ユニシス情報システム(株)事業企画部アフィリエイトビジネス室長

高い技術力と  
顧客満足度を誇る

日本ユニシス情報システム(株)は、一九六九年に親会社・日本ユニシス(株)の前身である日本ユニバツク(株)の下、(株)日本ユニバツク総合研究所として設立され、今やインターネットとアウトソーシングの専門企業として飛躍的な発展を遂げています。

同社では、業界トップクラスの顧客満足度を誇るプロバイダー「UnesSURF」の基盤と業務ノウハウ、さらには、日本ユニシスグループ唯一のBtoCビジネスの担い手としてのノウハウを駆使して、顧客の事業戦略の実現をフルサポ



日本ユニシス情報システム(株)の松野さん

ートしています。最近では、デジタルコンテンツビジネスにも参入、コンテンツサービス・プロバイダーとしてデジタル文化の情報を提供しています。

## 「どりまぐ.com」で デジタル文化を発信

今回は、そのデジタルコンテンツビジネスを立ち上げたプロジェクトを紹介いたします。

同社では、インターネットのブロードバンド化に対応し、映像や音声などを配信する事業を推進するために、二〇〇二年十月に新たにデジタルコンテンツビジネス部が創設されました。そのリーダーが松野さん(当時/デジタルコンテンツビジネス部長)です。松野さんは「その年のクリスマスまでにWebサイトを立ち上げよとの指示があり、時間との闘いでした。当社ではインターネット接続サービスと「UnesSURF」を十一年前から進めています。プロバイダーも法人向け中心から今では個人

向けも増加し、BtoCのインフラは整備されてきたのですが、何しろコンテンツでのサービスは初めてなので苦労しました。そして「それも会員が集まるポータルサイトを一か月以内につくれ」ということで、まずはサイトのコンテンツづくりに着手しました。わが社はIT企業ですからコンテンツ自体は持つておらず、最も不得手な分野です。従ってコンテンツを持つている企業と組む必要があり、『フランケン』というデジタルコミックのサイトをそのまま買って出発したわけです。併せて、ポータルサイトの呼称『どりまぐ.com』の商標登録と米国にドメイン申請をして、何とか期限ギリギリに立ち上げることができました」と、当時の苦難を語ります。

当初は、コンテンツも乏しいため、とてもビジネスとして成り立つものでなく、今から思えば無茶苦茶だったと言います。二〇〇三年度の目標として十五サイトを立ち上げるべく、あらゆるつてを頼ってコンテンツ集めに奔走しました。大手競合先に対抗するには、どこも扱っていないニッチの分野に特化していくことです。インディーズ(大手の系列に入らず、自主制作している音楽会社や映像会社、またその作品)に的を絞り、ミュージック、ノベルズ、フラワールアレンジメントやゲームなど、コンテンツも充実してきました。さらにKDDI(株)の協力で「携帯どりまぐ」も立ち上げるなど、新たな市場にも進出しています。

今後の展開については、松野さんは「これまで、まずはサイトを増やし、コンテンツを充実させて、その中からビジネスとして成り立つものを模索してきましたが、今後はビジネスに結びつくコンテンツをいかにして見つけるかにかかっています」と、将来性のある新たな市場への思いを語りました。

どりまぐ.comのWebサイト：  
http://www.dreamag.com

(リポーター：東京三栄会広報委員長・三井物産ハウスエック(株)安藤康綱)